



MONJU at present
高速増殖原型炉もんじゅ
プラント確認試験速報

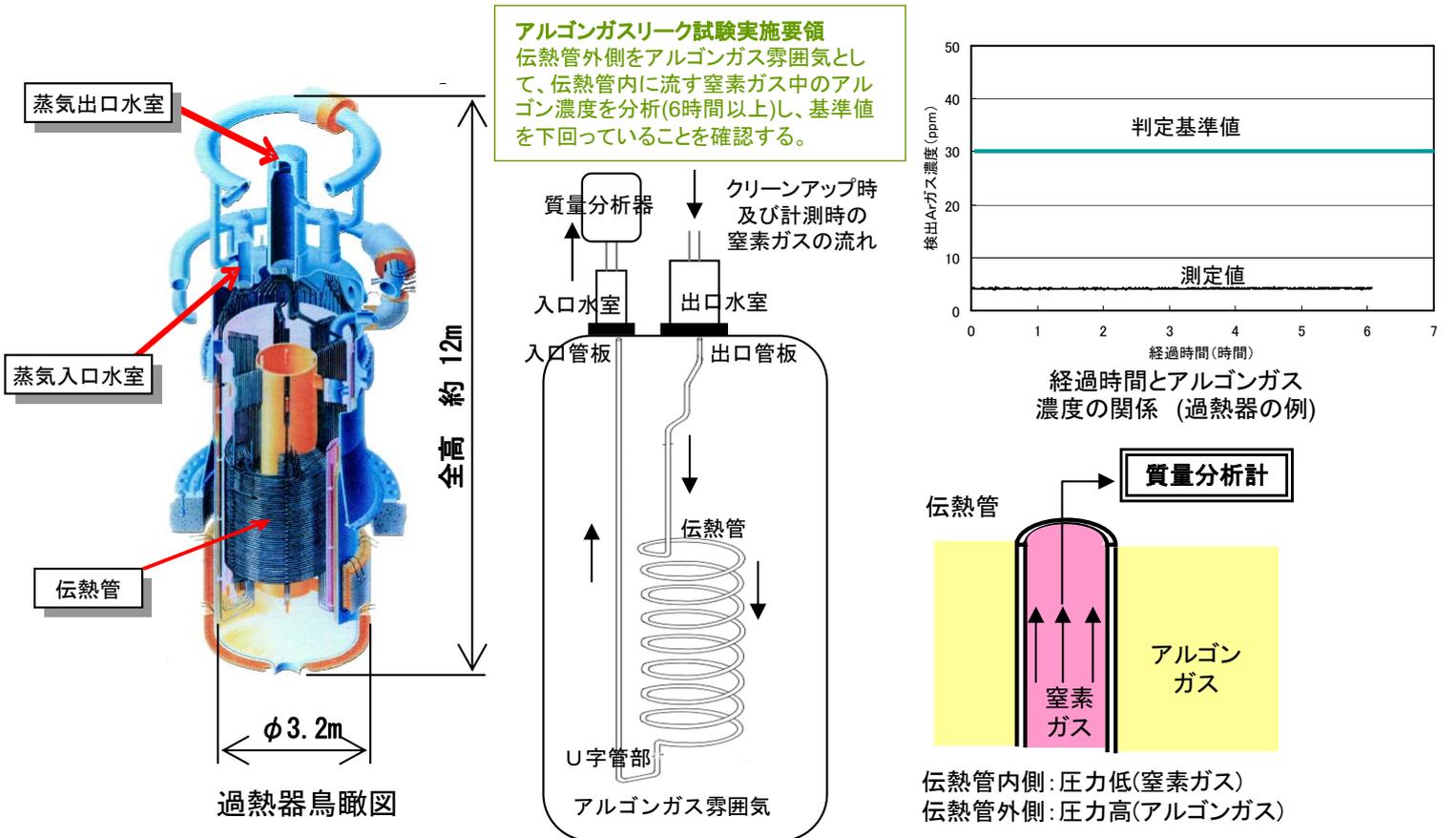


第8号

平成20年2月8日発行

試験件名	4. 蒸気発生器の安全性及び安全を監視する機能の確認 (蒸気発生器伝熱管健全性確認試験)	当該試験速報回数	2
試験目的	目視試験、アルゴンガスリーク試験及び渦流探傷試験により、伝熱管に著しい減肉及び腐食がないことを確認する。		
試験範囲	蒸気発生器(蒸発器、過熱器)B		

主要な試験項目	試験内容	結果	実施時期
蒸気発生器伝熱管健全性確認試験 (Bループ)	(1) 目視試験: 伝熱管内面(水室含む)について、CCDカメラによる目視確認を行う。 (2) アルゴンガスリーク試験: 蒸気発生器内アルゴンガスの伝熱管内窒素ガスへの漏れ量を測定し、伝熱管に貫通孔がないことを確認する。 (3) 渦流探傷試験: 伝熱管内に検出用プローブを挿入し、伝熱管内面の局部腐食の有無を確認する。	貫通孔がないことを確認するとともに、有意な腐食、減肉がないことを確認した。	H19.12.11 ~ H20.2.5



(試験概要)

先に報告したAループに引き続き、Bループ蒸気発生器の伝熱管に対し健全性の確認のため渦流探傷試験(全数)、内面の目視試験(抜取り)、アルゴンガスリーク試験(全数)を実施した。

Aループ同様、Bループについても、

(1) CCDカメラを用いた目視試験により、管内面に有意な腐食や減肉がないことを確認した。

(2) アルゴンガスリーク試験では、伝熱管内の窒素ガス中のアルゴンガス濃度が判定基準値(30ppm)以下であることから、貫通孔がないことを確認した。

(3) 渦流探傷試験では、判定基準値を超える信号がないことを確認した。

以上の結果から総合的に、有意な腐食、減肉がなく、蒸発器B、過熱器Bは健全であると確認した。